

## 回覧

# 防災会だより 10月

2020.10 自主防災会長 中山 敏夫

秋らしい気候となりましたが、コロナ汚染への警戒は続きます。マスコミはじめコロナ禍とその対応に注意が向けられていますが、南海トラフ地震など災害へのリスクが減ったわけではありません。防災・減災への準備は怠れません。

今回は地震時の身の回り、避難所への避難経路についてみてみます。繰り返し言われており皆様には既に想定されていることと思いますが、例えば真冬の深夜とか豪雨の中とか厳しい状況ではどうでしょうか。懐中電灯、長靴、カッパ、防寒の備えは？道路は安全でしょうか？川の増水は？

図1は両側のブロック塀が倒れるとほとんど通れなくなる。また高い電柱や樹木が倒れ、道をふさぐかも知れない。



図2は橋が落ちたら？川沿いを通るのは急に水かさが増すかも知れず危険。側溝やがけ、積み石の確認を。

図3はトンネルですが破損や落下物の可能性があります。街灯は消え、夜は真っ暗になる。災害時には車が動けなくなり、道路をふさいでしまうかも・・・。



大きな災害が発生すればこれらの障害が複数起こり、各自で状況に応じた最適な判断が迫られます。「心配をすればきりが無い」「老人や子供がいるので避難できない」かもしれませんが、事前にできるだけ自助の準備をしておくことは可能です。

- \*避難装備（ランプ、長靴、雨具、衣服、防災グッズなど）を準備、点検する。
- \*家族で、家の周囲と“我が家の避難経路”を実際に歩き、最悪の状況を想定しながら立体的空間でのリスクを確認する。大きな川や細い橋、高い石垣・構造物を出来るだけ避けて開けた場所を通るようにする。また「まわり道」を探しておくのも大切。
- \*周辺の建物・構造物など風景は毎日変わっている。時折歩いてその変化を確認する。
- \*避難・防災行動を行うときは火の始末をし、隣近所に声をかけあい、協力しあうことが重要。

防災バケツは常に水を満杯にして玄関先へ！